

# 児童の思考力、判断力、表現力等を育む授業の在り方に関する研究

## 一言語活動の充実を図る視点から

義務教育研修課 主任指導主事 道前 弘志  
指導主事 早瀬 幸二

### はじめに

知識基盤社会の到来や、グローバル化の進展など急速に社会が変化する中、次代を担う子どもたちには、幅広い知識と柔軟な思考力に基づいて判断することや、他者と切磋琢磨しつつ異なる文化や歴史に立脚する人々との共存を図ることなど、変化に対応する能力や資質が一層求められている<sup>1)</sup>。一方、近年の国内外の学力調査の結果から、子どもたちには知識・技能の活用など思考力、判断力、表現力等に課題があることが明らかになった。これらの現状や課題等を踏まえ、平成20年3月に告示された小学校学習指導要領では、各教科等において思考力、判断力、表現力等を育成する観点から、基礎的・基本的な知識及び技能の活用を図る学習活動を重視するとともに、言語環境を整え、言語活動の充実を図ることが示された<sup>2)</sup>。

言語活動はこれまでの授業においても行われてきたが、思考力、判断力、表現力等を育むためには、記録、要約、説明、論述といった言語活動を単元の中に意図的に位置付けて、単元及び授業の構想をしていくことが必要である。

本研究では、当所で実施した研修講座をとおして小学校教員の言語活動に関する実践状況や意識を調査し、その結果を踏まえて、児童の思考力、判断力、表現力等の育成に向けた、言語活動の効果的な取り入れ方について具体的な視点を示す。

### 1 言語活動の充実が求められる背景

教育課程実施状況調査やPISA調査、TIMSS調査、全国学力・学習状況調査の結果から、知識・技能の活用など思考力、判断力、表現力等に課題があることが明らかになった。中央教育審議会は、学習指導要領改訂の基本的な考え方の一つとして、思考力、判断力、表現力等の育成を挙げ、これらの力を育むために重要な学習活動として、6つの例（以下、「6つの学習活動例」という）を示した<sup>3)</sup>（表1）。これらの学習活動の基盤となるのは「数式などを含む広い意味での言語」<sup>4)</sup>

である。そこで、同審議会は、各教科等において記録、要約、説明、論述などの言語活動を発達の段階に応じて行い、言語をととした学習活動の充実をとおして思考力、判断力、表現力等の育成を図ることが重要だとした。

表1 「6つの学習活動例」

- |                               |
|-------------------------------|
| ①体験から感じ取ったことを表現する             |
| ②事実を正確に理解し伝達する                |
| ③概念・法則・意図などを解釈し、説明したり活用したりする  |
| ④情報を分析・評価し、論述する               |
| ⑤課題について、構想を立て実践し、評価・改善する      |
| ⑥互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる |

### 2 言語活動の充実に向けた現状と課題

#### (1) 言語活動に関するアンケート調査

##### ア 調査の概要

言語活動の充実に関する授業実践の状況や教員の意識を調べることを目的としてアンケート調査を実施した。教職経験年数や担当学年に大きく偏りがないよう配慮しながら、当所の研修講座の受講者のうち、一部の

表2 アンケート調査の対象

教職経験年数	人数 (割合)	担当学年	人数 (割合)
10年以下	12人 (34.3%)	第1・2学年	7人 (20.0%)
11年～20年	16人 (45.7%)	第3・4学年	13人 (37.1%)
21年～30年	7人 (20.0%)	第5・6学年	10人 (28.6%)
合計	35人	その他	5人 (14.3%)
		合計	35人

小学校教員を対象とした（表2）。

イ 調査の結果

(7) 言語活動の充実を意識した取組状況

まず、教員が、国語科と国語科以外の教科のそれぞれについて、どの程度言語活動の充実を意識して授業を行っているのかを質問し、その結果を表3にまとめた。「かなり実践している」「どちらかといえば実践している」を合わせた割合を比較した結果、国語科

(75.8%)の方が、国語科以外の教科(61.8%)に比べ言語活動の充実を意識した取組を行っている割合が高いことがわかる。また、表4は、取組の内容について自由記述で得た回答を抜粋したものである。国語科では、「音読、スピーチ、暗唱、話し合い活動等を行っている」ことや、「発表のしかたや話し方を指導している」という回答が見られた。また、国語科以外の教科では、「話し合い活動を効果的に入れるように心がけている」ことや、「自分が感じたことなどを振り返りとしてノートにまとめさせている」といった回答が見られた。取組を行っていない理由としては、国語科、国語科以外の教科のどちらも、「何をしたらいいかわからない」「自分自身があまり意識できていない」といった回答が見られた(表5)。

表3 言語活動の充実を意識した取組

	国語科	国語科以外
	人数(割合)	人数(割合)
かなり実践している	3人(9.1%)	2人(5.9%)
どちらかといえば実践している	22人(66.7%)	19人(55.9%)
どちらかといえば実践していない	7人(21.2%)	12人(35.3%)
全く実践していない	1人(3.0%)	1人(2.9%)
合計	33人	34人

※上記の結果は無記入の人数を除いている。

表4 言語活動の充実を意識した取組の内容 (抜粋)

<p>【国語科】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・読書活動を推進している。</li> <li>・音読、スピーチ、暗唱、話し合い活動等を行っている。</li> <li>・できるだけ自分で言語表現や言語化をさせている。</li> <li>・各領域のねらいに迫るために、言語活動を位置付けた授業づくりを行っている。</li> <li>・発表のしかたや話し方を指導している。</li> </ul> <p>【国語科以外】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の中で話し合い活動を効果的に入れるように心がけている。</li> <li>・どの教科でも音読を取り入れている。</li> <li>・理由づけたり、伝えあったりという活動を多く取り入れるようにしている。</li> <li>・話し方、聞き方等、校内で一つの方向を決めて進めている。</li> <li>・自分が感じたことなどをその時間の振り返りとしてノートにまとめる活動をしている。</li> </ul>
---

表5 言語活動の充実を意識した取組を行っていない理由 (抜粋)

<p>【国語科】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的な取組を理解していない。</li> <li>・何が言語活動の充実にあてはまる取組か、どのような実践をすればよいかあまりわからない。</li> <li>・特別に充実させることができていないと感じている。</li> <li>・自分自身があまり意識できていない。</li> </ul> <p>【国語科以外】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的な取組を理解していない。何をしたらいいかわかっていない。</li> <li>・単発的なものはあるが、国語よりも頻度は低い。</li> <li>・自分自身があまり意識できていない。</li> </ul>
--

(4) 思考力、判断力、表現力等を育むための学習活動

次に、教員が、思考力、判断力、表現力等を育むための学習活動をどの程度行っているのかを調べるため、教科に関係なく「6つの学習活動例」の取組状況を質問し、その結果を図1に表した。「6つの学習活動例」のうち、①体験から感じ取ったことを表現する、②事実を正確に理解し伝達する、⑥互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる学習活動は、他の活動に比べて「かなり取組

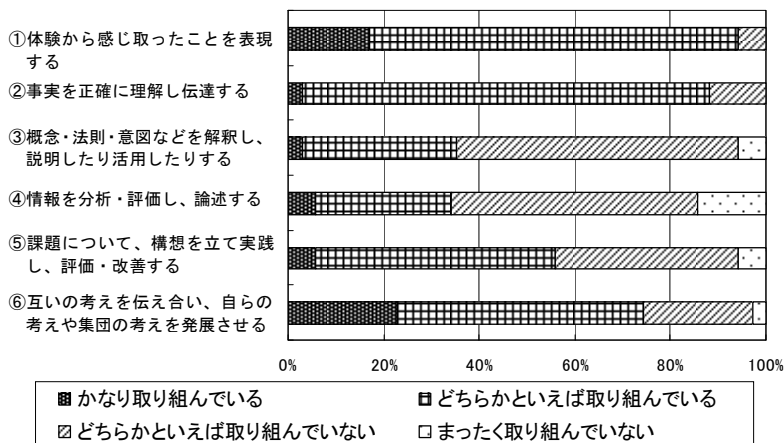


図1 「6つの学習活動例」の取組状況

んでいる」「どちらかといえば取り組んでいる」を合わせた割合が高くなっており、③概念・法則・意図などを解釈し、説明したり活用したりする、④情報を分析・評価し、論述する学習活動の割合は低くなっている。

また、それぞれの学習活動について、取り組みやすいと感じる活動と、取り組みにくいと感じる活動を複数回答可で求めた。図2はその結果である。

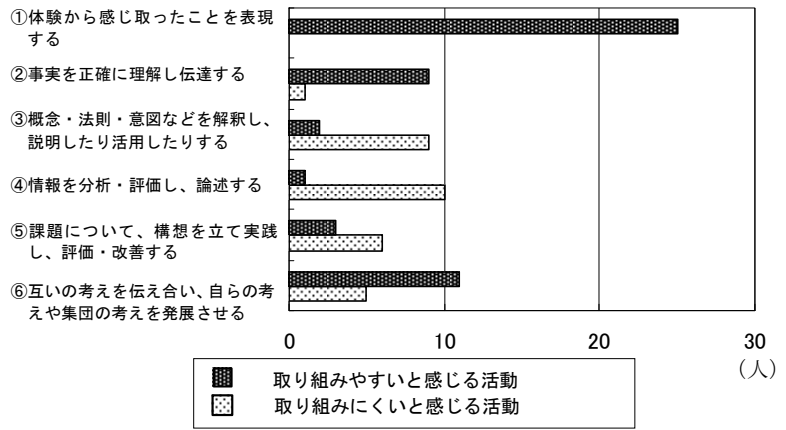


図2 取り組みやすいと感じる活動・取り組みにくいと感じる活動 (複数回答)

図1の結果と同様に、①体験から感じ取ったことを表現する、②事実を正確

に理解し伝達する、⑥互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる学習活動について取り組みやすいと感じている教員が多く、③概念・法則・意図などを解釈し、説明したり活用したりする、④情報を分析・評価し、論述する学習活動は取り組みにくいと感じている教員が多い。

取り組みやすいと感じる理由については、「体験から感じ取ったことは、いろいろな教科の活動に含まれているので取り組みやすい」など、どの教科でも取り組むことができるといった内容が挙げられている(表6)。取り組みにくいと感じる理由については、「指導方法のイメージがわからない」「文章を読んで分析することは子どもたちにとっては難しい」などが挙げられた(表7)。

表6 取り組みやすいと感じる理由 (抜粋)

①体験から感じ取ったことを表現する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体験から感じ取ったことは、いろいろな教科の活動に含まれているので取り組みやすい。</li> <li>・感じたことを話すことが一番子どもにとって取りかかりやすいと思う。</li> </ul>
②事実を正確に理解し伝達する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・思いを書かせないため、子どもに組みませやすい。</li> <li>・伝える相手や目的がはっきりしているので、活動に見とおしをもたせやすい。</li> </ul>
⑥互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・互いの考えを伝え合うことは、どの教科においても授業の中心であるから。</li> <li>・授業のねらいに即して様々な学習形態を選択することができる。</li> </ul>

表7 取り組みにくいと感じる理由 (抜粋)

③概念・法則・意図などを解釈し、説明したり活用したりする	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導方法のイメージがわからない。</li> <li>・解釈のための十分な情報提供や具体的な支援を行えていない。</li> </ul>
④情報を分析・評価し、論述する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が収集した情報が正しくなかったり、それをもとに論述したりすることが苦手である。</li> <li>・文章を読んで分析することは子どもたちにとっては難しい。</li> </ul>

## ウ 調査の分析

アンケート調査によると、教員は、国語科以外の教科よりも国語科において言語活動の充実を意識した取組を多く行っていることがわかった。これは、この度改訂された小学校学習指導要領において、国語科の内容に言語活動例がより具体的に示されたことで、教員の言語活動を行うことに対する意識が高くなっているためであると推測される。

国語科においては、ここで音読する、ここで話し合うというようにばらばらに言語活動を行うのではなく、単元全体をとおして行う活動として言語活動を位置付け、具体的な活動をとおして日常生活に必要とされる記

録、説明、報告、紹介、感想、討論といった言語活動を行う能力を身に付けさせることが大切である<sup>5)</sup>。また、国語科以外の教科については、国語科で培った能力を基本に、それぞれの教科の目標を実現する手立てとして言語活動を充実させる必要があるとされている<sup>6)</sup>。

アンケート調査では、言語活動の充実を意識した取組の内容として、国語科は、音読や話し合いを行っているという内容が多くを占めた。国語科以外の教科でも、話し合い等の活動を行っていることが多く挙げられている。しかし、言語活動をねらいに応じて単元計画に位置付けているといった内容や、国語科で学習したことを他の教科の言語活動に関連させているといった内容は少なかった。言語活動を充実させることに対する教員の意識は高まっているものの、一つ一つの活動がもつねらいを考えながら言語活動を取り入れることなく、話し合いや音読といった活動を多く行っていれば言語活動を充実させることにつながると考えている教員がいることが推測される。

また、国語科以外の教科では38.2%の教員が言語活動の充実を意識した取組を「あまり実践していない」あるいは「実践していない」と回答している。その理由として、「何をしたらいいのかわからない」「自分自身があまり意識できていない」といった回答が挙げられており、言語活動の充実を意識した取組を実践していない教員は、言語活動を充実させるとはどうすることなのかという具体的なイメージがつかめていないのではないかと考える。

「6つの学習活動例」については、教員は、①体験から感じ取ったことを表現する活動、②事実を正確に理解し伝達する活動、⑥互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる活動に対して取り組みやすいと感じている(図2)。その理由として、「感じたことを話すことが一番子どもにとって取りかきやすい」「思いを書かせないため、子どもに取りませやすい」ことなどが挙げられており、児童の感じ方に委ねたり、児童が取り入れた情報をそのまま伝えたりする活動に対しては取り組みやすさを感じていると思われる。

一方、③概念・法則・意図などを解釈し、説明したり活用したりする活動、④情報を分析・評価し、論述する活動に対しては、他の活動に比べて取り組んでいる割合が低く、取り組みにくいと感じている教員も多いことがわかった(図1、2)。取り組みにくいと感じる理由として、「指導方法のイメージがわからない」「解釈のための十分な情報提供や具体的な支援を行えていない」という回答が見られる(表7)。説明させたり論述させたりする活動があまり行われておらず、資料から得た情報を関連付けながら解釈させたり分析させたりするための支援の在り方について十分なイメージができていないことが考えられる。また、「児童が収集した情報が正しくなかったり、それをもとに論述したりすることが苦手である」ことを理由に取り組みにくさを感じている(表7)。取り入れた情報をそのまま伝えさせることはできるが、児童に自分の考えに基づいた資料を集めさせることや、集めた資料を用いたり自らの経験に照らし合わせたりしながら自分の考えを述べさせることについては難しさを感じていると推測される。

## (2) 「平成23年度 小学校 言語活動の充実に向けた学習指導研修講座」をとおして

### ア 研修講座の概要

当所では、本年度、各教科における言語活動の意義を学ぶとともに、各教科の特質に応じた言語活動の充実に向けた学習指導の在り方について研修することを目的として「小学校 言語活動の充実に向けた学習指導研修講座」を実施した。

表8は、2日間で行った研修講座の内容を示したものである。第1日には、各教科における言語活動の意義について理解を図った後、各教科の特質に応じた言語活動の充実のさせ方について演習・協議を行った。第2日には、各自が選択した教科で授業プランを作成し、その相互評価を行った。

表8 「言語活動の充実に向けた学習指導研修講座」の内容

第1日	講義 演習・協議 演習・協議	言語活動の充実に向けて —各教科における言語活動の意義— 各教科の特質に応じた言語活動の充実 言語活動の充実に向けた学習指導Ⅰ ・自校における実践と課題の整理
第2日	演習・協議 協議	言語活動の充実に向けた学習指導Ⅱ ・授業プランの作成 児童の思考力、判断力、表現力等を育むために ・授業プランの相互評価 等

## イ 言語活動の充実に対する教員の意識

「演習・協議 言語活動の充実に向けた学習指導Ⅰ」では、授業プランの作成に向けて自校における実践と課題を整理した。表9は、協議において受講者が言語活動を取り入れた授業を行うに当たって課題と感じている点について発表した内容をまとめたものである。

受講者は、「児童に意欲をもたせること」や「児童に考えをもたせること」「児童に自分の考えを的確に表現させること」などを課題と感じていた。

また、講座終了後、多くの受講者から「これまで、授業の中でよく話し合い活動をしていたので言語活動が充実していると思っていたが、教科のねらいを達成することを意識して言語活動を行わなければならないとわかった」「言語活動を行う際に、国語科で身に付けさせた力を生かすことを意識していなかった」といった声が聞かれた。受講者は、話し合いやレポートの作成など、個々の活動を言語活動として意識して取り組んでいたが、言語活動を教科のねらいを達成する手立てとして行うことや、教科間の連携を図りながら言語活動を充実させることについてはあまり意識をしていなかったようである。

表9 言語活動を取り入れた授業を行うに当たって課題と感じていること（抜粋）

- ・児童に意欲をもたせることに難しさを感じる。
- ・児童に考えを持たせられていない。
- ・児童に自分の考えを的確に表現させることが難しい。
- ・相手の話をしっかりと聞かせることができない。
- ・話し方や考え方を身に付けさせることが大切だと感じる。
- ・学習したことを活用させられていない。
- ・児童の語彙等、学力の差が大きい。
- ・主体的に取り組むため授業づくりを心がけたい。
- ・身に付けさせる力を明確にしていくことが必要である。
- ・教科や学年間の系統性を考える必要がある。

## 3 思考力、判断力、表現力等の育成に向けて

### (1) 解釈したことや分析したことを自分の言葉で説明させたり、論述させたりする学習活動

#### ア 解釈したことや分析したことを自分の言葉で説明させたり、論述させたりする学習活動に向けて

アンケート調査の結果から、教員は、説明させたり論述させたりするといった活動についてはあまり取り組めていないことや、資料から得た情報を関連付けながら解釈させたり分析させたりするための支援の在り方について十分なイメージができていないこと、児童に自分の考えに基づいた資料を集めさせることや、集めた資料を用いたり自らの経験に照らし合わせたりしながら自分の考えを述べさせることに難しさを感じていることがわかった。

「小学校 言語活動の充実に向けた学習指導研修講座」からは、教員が、児童に意欲をもたせることや児童に自分の考えを的確に表現させることなどを課題と感じていることがわかった。児童に意欲をもたせられない理由として、児童の課題意識を高められていないのではないかと考えられる。また、自分の考えをうまく表現させられない原因として、考える視点や話し合う視点を教師が明確に示していないことが考えられる。例えば、教師が視点を明確にしないまま児童に文章を提示し、「考えたことを話し合いましょう」と指示しても、ある児童はその文章の内容について話し、ある児童は構成について話し、またある児童はその文章をもとに自分の生活体験を話すなど、論点が児童によって異なってしまい、話し合いを深めることは難しい。その結果、児童に学習のまとめを書かせても、授業のねらいに沿ったものではなく、漠然とした感想にとどまってしまう。

上記の現状や課題を踏まえ、本研究では、児童に課題意識をもたせたり、資料から得た情報を関連付けながら解釈、分析させたり、資料に基づいて児童に自分の言葉で説明、論述させたりするための学習活動の展開を提案する。なお、言語活動を取り入れる際には、話し合う視点や考える視点を児童に明確に示すよう配慮した。

また、教員が言語活動の充実を意識した取組を行っていない理由として、言語活動を充実させることに対して具体的なイメージをもてていないことが考えられた。言語活動の充実を意識した取組を行っている教員の中にも、一つ一つの活動がもつねらいを考えながら言語活動を取り入れるのではなく、話し合いや音読といった活動を多く行っていれば言語活動を充実させていることになるといった意識があることがうかがえた。そこで、それぞれの言語活動のねらいを明確にし、そのねらいに応じて単元計画に位置付けるなど、言語活動の具体的な取り入れ方を示すようにした。

さらに、アンケート調査の結果から、情報を分析・評価し、論述する学習活動など、児童にとって取り組むのが難しい活動に対しては、教員も取り組みにくいと感じていることがわかった。同講座の演習でも、「これまで、児童に新聞づくりやレポートの作成をさせる際に、その手順や留意点を示していなかった」という意見が挙がった。そこで、どの児童も活動に取り組めるように、ワークシートを用意するなど、それぞれの言語活動について具体的な支援の方法を示すこととした。

### イ 解釈したことや分析したことを自分の言葉で説明させたり、論述させたりする学習活動の展開例

解釈したことや分析したことを自分の言葉で説明させたり、論述させたりする学習活動の展開として、問題解決的な学習を行ったりグラフや表を活用したりする機会の多い社会科を例に授業プランを示した。なお、本授業プランでは、言語活動に関する学習活動を示しており、そのうち、解釈したことや分析したことを自分の言葉で説明させたり、論述させたりするための活動に①～⑨の番号を付した。

#### 第5学年 社会科授業プラン

- 1 単元名 わたしたちの生活と食料生産
- 2 単元の目標 日本の農業や水産業について調べ、これらが国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることや自然環境と深いかかわりをもって営まれていることを考えるようにする。
- 3 単元の指導計画 (全29時間)

設定する課題	第一次	学習計画を立てる	○新聞折込広告などから食品の産地を調べる。(1)
			○日本の食の未来について話し合う。(1) 【言語活動①】
			○課題を解決するための方法を話し合う。(1) 【言語活動②】
課題について調べる	第二次	農業について調べる	○農業の工夫について調べる。(5) ・予想したことを話し合う。【言語活動③】 ・グラフ等の統計資料を用いて調べる。【言語活動④】 ・解釈したことや分析したことを整理する。【言語活動⑤】
			○インタビューをもとに農業について調べる。(4) ・聞くことを整理する。【言語活動③】 ・予想したことを話し合う。【言語活動⑤】 ・農業に携わっている方にインタビューをする。【言語活動⑤】 ・解釈したことや分析したことを整理する。
	第三次	中間発表会を行う	○中間発表会の準備をする。(1)
			○中間発表会を行う。(2) 【言語活動⑥】
	第四次	水産業について調べる	○水産業の工夫について調べる。(5) ・予想したことを話し合う。【言語活動③】 ・グラフ等の統計資料を用いて調べる。【言語活動④】 ・解釈したことや分析したことを整理する。【言語活動⑤】
			○討論会の準備をする。(6) 【言語活動⑦】 ・主張したいことを明確にする。 ・必要な情報を収集する。 ・図や表を用いるなど、自分の考えを効果的に伝えるための方法を考える。
まとめる	第五次	日本の食の未来について考える	○日本の食の未来について考える討論会を行う。(2) 【言語活動⑧】
			○図や表など、主張したいことに合わせた情報を収集し、レポートを作成する。(1) 【言語活動⑨】

※表中の( )内の数字は各学習活動の授業時数

※【言語活動①～⑨】は解釈したことや分析したことを自分の言葉で説明させたり論述させたりするための活動

本授業プランの具体的な展開について、以下の(7)～(9)に示した。ここでは、児童に課題意識をもたせたり、資料から得た情報を関連付けながら解釈、分析させたり、資料に基づいて児童に自分の言葉で説明、論述させたりするために、9つの言語活動をそれぞれのねらいに応じて取り入れるとともに、具体的な支援の方法を設けている。

#### (7) 課題意識を高める

本授業プランでは、課題意識を高めるために、4つの言語活動【言語活動①、②、③、⑥】を取り入れた。課題を設定する場面では「日本の食は今後どうなるのか」ということについて話し合う活動を行う【言語活動①】。まず、児童が新聞折込広告などから食料の産地を調べ、その結果を発表し合う。児童は、新聞折込広告などを見て「自分たちが食べている多くの食料は国内で作られているのではないか」と考えると予想される。そこで、食料自給率のグラフを児童に示し、「日本の食は今後どうなるのか」ということについて話し合わせる。児童は、日本の食料自給率が低いという事実には驚きを感じ、日本の食の未来について真剣に自分の意見を主張し合うであろう。このような話し合いをとおして、日本の食の今後について考えたいという意欲や、日本の食の未来について考えるために日本の食料生産がどのようになっているのかを調べなければならないという意識が高まる。

次に、学習計画を立てさせる。ここでは、単元全体の課題を解決するために必要なことや調べる方法を話し合わせる【言語活動②】。調べる方法について話し合う際には、自分たちが考えた方法のメリットとデメリットも考えさせる。調べる内容や調べる方法について話し合う場をもつことで、児童が単元全体を見とおし、一つ一つの活動の意味について意識することをねらった。また、学習計画を立てさせる際には、学習のまとめをどのようにするのかを示す。なお、児童が学習計画を立てることに慣れていようであれば、児童に学習のまとめを考えさせてもよい。ここでは、単元のまとめを「日本の食の未来について考える討論会を行う」とし、「日本の食の未来について考えるために農業や水産業などについて学習する」という課題意識を高められるようにした。

また、調べる前には、予想したことを交流させる活動を取り入れる【言語活動③】。児童が自身の経験や既習事項等、根拠を示して説明できるための支援の方法として、「〇〇は、〇〇だから〇〇だと考える」というように話型を示す。予想を立てさせたり、互いの予想を交流させたりすることで、課題を解決したいという意欲を高めることをねらった。

さらに、単元の途中には中間発表会を設けている【言語活動⑥】。中間発表会をとおして、自分にはなかった新たな視点に出会わせることをねらっている。また、「何のために調べているのか」という目的意識が薄れないように、単元の途中で「日本の食の未来について考える」という課題を再確認することをねらった。

#### (8) 情報を関連付けながら解釈させたり分析させたりする

情報を関連付けながら解釈させたり分析させたりするための活動として、2つの言語活動【言語活動④、⑤】を取り入れた。まず、複数の情報を関連付けて読み取らせるために、グラフ等の統計資料を用いて調べる活動を行う【言語活動④】。その際、最初から教師がグラフ等の内容や読み取り方を説明するのではなく、グラフや表を示し、どのようなことがわかるのかについて児童から自由に意見を述べさせる。その後、児童から出された意見を全体で整理しながら、グラフを読み取る際の視点やグラフに示された情報の関連などに気づかせる。児童から出された複数の異なる視点を整理することにより、児童は、様々な視点からグラフ等に示された情報を解釈したり、複数の情報を関連付けながら分析したりすることができるようになる。

次に、解釈したことや分析したことを整理する活動を行う【言語活動⑤】。ここでは、児童がわかったことと考えたことを整理するための支援の方法として、事実と意見を明確に区別できるように工夫したワークシートを用いる。また、「何について考えるのか」という視点を示し、感じたことや考えたことが漠然とした感想とならないようにする。さらに、解釈したことや分析したことをペアで説明し合う活動を取り入れる。解釈したことや分析したことを自分の言葉で説明し直す活動をとおして、児童の理解をさらに深めさせることができる。

#### (ウ) 資料に基づいて児童に自分の言葉で説明させたり論述させたりする

資料に基づいて児童に自分の言葉で説明させたり論述させたりする活動として、日本の食の未来について考える討論会を行う【言語活動⑧】。ここでは、各自が自分の考えを発表し、それに基づいて討論を行う。「討論会で相手を納得させるように話す」という目標をもつことで、児童が伝え方を工夫する必要性を感じながら主体的に学習に取り組むことができる。

また、討論会の前には準備を行う学習活動を設ける【言語活動⑦】。ここでは、自分の考えを明確にさせ、それに基づいた資料を収集させやすくするために、活動を大きく3つの段階に分ける。まず、自分が主張したいことを明確にさせる。次に、自分の意見を説明するために必要な情報を収集させる。最後に、図や表を提示するなど、自分の考えを効果的に伝えるための方法を考えながら準備をさせる。主張したいことを明確にさせたり必要な情報を収集させたりする際には、これまでの学習で用いたワークシートや中間発表会の記録を綴じたものを活用し、自分の考えを整理する手助けとする。また、必要な情報を収集したり自分の考えを伝えるための方法を考えたりする際には、似た考えの児童を同じグループにし、相談をしながら互いの考えが深められるようにする。さらに、資料から解釈したことを説明し、それに対する考えを論述できるように、ワークシートを用いて事実と意見を区別させるようにする。このように、討論会の準備を段階に分けることやグループ編成を工夫すること、ワークシートを用いて事実と意見を区別させることをとおして、自分の考えを表現するのがあまり得意でない児童も、自分の考えを明確にし、それに基づいた資料を提示しながら自分の言葉で説明したり論述したりすることができる。

討論会後は、「日本の食の未来について」をテーマにレポートを作成する【言語活動⑨】。討論会の後にレポートの作成を位置付けることで、「討論会をとおしてさらに自分の考えを深めよう」という意識を高められる。レポートを作成する際には、討論会の準備で行ったことを生かし、主張したいことを明確にさせ、それに基づいて資料を提示させるようにする。

#### (2) 各教科等における言語活動と国語科との関連

「小学校 言語活動の充実に向けた学習指導研修講座」をとおして、教科間の連携を図りながら言語活動を充実させることについてはあまり意識をしていない教員がいることや、各教科において言語活動を行う際に具体的な支援の方法を考えていない教員がいることがわかった。例えば、社会科でレポートを作成させる際に、国語科で行った文章全体の構成を考える学習を生かすなど、各教科等において言語活動を行う際に、国語科での学習を生かすことで、児童の言語に関する能力が高まり、その結果、思考力、判断力、表現力等の育成につながると考える。そこで、小学校学習指導要領に示された国語科の言語活動例をもとに、国語科で学習したことが本授業プランに示した言語活動にどのように生かせるのかを以下に示す。

国語科の第5・6学年「話すこと・聞くこと」には、言語活動例として「調べたことやまとめたことについて、討論などをする」活動が示されている。ここでは、本などを用いて調べたり、インタビューやアンケートを行ったりするなどして資料を用意することや、話し合いで異なる意見や対立する意見が出たときには、準備した資料などに基づいて明確に対応することを学習する。本授業プランにおける、課題を解決するための方法を話し合う活動【言語活動②】や予想したことを話し合う活動【言語活動③】、日本の食の未来について考える討論会【言語活動⑧】でも、活動経験や既習事項などの根拠を示して自分の考えを説明することから、本授業プランの言語活動に国語科で学習したことを関連させることができる。

また、国語科の第5・6学年「書くこと」の言語活動例に示されている「自分の課題について調べ、意見を記述した文章や活動を報告した文章などを書いたり編集したりする」活動では、一人一人の児童が設定した課題について調べたり、課題に応じてどのような種類の文章を用いるのかを考えたりする。このような活動は、本授業プランで設けた、解釈したことや分析したことを整理したり【言語活動⑤】、レポートを作成したり【言語活動⑨】する言語活動に関連させることができる。

さらに、本授業プランには、情報を収集する際に資料から必要な情報を読み取ったり【言語活動④】、自分の



考えを説明するための資料を用意したり【言語活動⑦】する言語活動を設けている。これらの活動は、第5・6学年「読むこと」の言語活動例に示された、「自分の課題を解決するために、意見を述べた文章や解説の文章などを利用する」活動に関連させることができる。

これまで、解釈したことや分析したことを自分の言葉で説明させたり、論述させたりする学習活動の展開例や本授業プランに示した言語活動と国語科との関連を示した。小学校学習指導要領解説の国語編には「国語科の指導内容は、系統的・段階的に上の学年につながっていくとともに、螺旋的・反復的に繰り返しながら学習

表 10 授業プランに示した言語活動に関わりのある国語科の内容の系統

授業プランに示した言語活動	小学校学習指導要領に示された国語科の内容（抜粋）		
	第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
日本の食の未来について話し合う【言語活動①】	<ul style="list-style-type: none"> <li>互いの話を集中して聞き、話題に沿って話し合うこと。（話・聞）</li> <li>大事なことを落とさないようにしながら、興味を持って聞くこと。（話・聞）</li> <li>相手に応じて話す事柄を順序立て、丁寧な言葉と普通の言葉との違いに気を付けて話すこと。（話・聞）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>互いの考えの共通点や相違点を考え、司会や提案などの役割を果たしながら、進行に沿って話し合うこと。（話・聞）</li> <li>話の中心に気を付けて聞き、質問をしたり感想を述べたりすること。（話・聞）</li> <li>相手や目的に応じて、理由や事例などを挙げながら筋道を立てて、丁寧な言葉を用いるなど適切な言葉遣いで話すこと。（話・聞）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>互いの立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合うこと。（話・聞）</li> <li>話し手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめること。（話・聞）</li> <li>目的や意図に応じて、事柄が明確に伝わるように話の構成を工夫しながら、場に応じた適切な言葉遣いで話すこと。（話・聞）</li> </ul>
課題を解決するための方法を話し合う【言語活動②】			
予想したことを話し合う【言語活動③】			
中間発表会を行う【言語活動⑥】			
日本の食の未来について考える討論会を行う【言語活動⑧】			
グラフ等の統計資料を用いて調べる【言語活動④】	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近なことや経験したことなどから話題を決め、必要な事柄を思い出すこと。（話・聞）</li> <li>経験したことや想像したことなどから書くことを決め、書こうとする題材に必要な事柄を集めること。（書）</li> <li>楽しんだり知識を得たりするために、本や文章を選んで読むこと。（読）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>関心のあることなどから話題を決め、必要な事柄について調べ、要点をメモすること。（話・聞）</li> <li>関心のあることなどから書くことを決め、相手や目的に応じて、書く上で必要な事柄を調べること。（書）</li> <li>目的に応じて、いろいろな本や文章を選んで読むこと。（読）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>考えたことや伝えたいことなどから話題を決め、収集した知識や情報を関連付けること。（話・聞）</li> <li>考えたことなどから書くことを決め、目的や意図に応じて、各事柄を収集し、全体を見通して事柄を整理すること。（書）</li> <li>目的に応じて、複数の本や文章などを選んで読むこと。（読）</li> </ul>
討論会の準備をする【言語活動⑦】			
解釈したことや分析したことを整理する【言語活動⑤】	<ul style="list-style-type: none"> <li>語と語や文と文との続き方に注意しながら、つながりのある文や文章を書くこと。（書）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>書こうとするものの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くこと。（書）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事実と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること。（書）</li> </ul>
図や表など、主張したいことに合わせた情報を収集し、レポートを作成する【言語活動⑨】	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。（書）</li> <li>文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いなどに気付き、正すこと。（書）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章全体における段落の役割を理解し、自分の考えが明確になるように、段落相互の関係などに注意して文章を構成すること。（書）</li> <li>文章の間違いを正したり、よりよい表現に書き直したりすること。（書）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えを明確に表現するため、文章全体の構成の効果を考えること。（書）</li> <li>引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書くこと。（書）</li> <li>表現の効果などについて確かめたり工夫したりすること。（書）</li> </ul>

※ 表中の（話・聞）、（書）、（読）は、『小学校学習指導要領』に示された国語科の「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の各領域を表している。

し、能力の定着を図ることを基本としている」<sup>7)</sup>と示されており、国語科で身に付けさせる言語活動を行う能力は、一度の学習で身に付くものではなく、学習を繰り返す中で培われるものであると考える。そこで、小学校学習指導要領をもとに、本授業プランに示した①～⑨の言語活動に関わりのある国語科の内容の系統を整理し、表10に示した。各教科等と国語科との関連に加え、国語科における各学年の内容の系統を意識することで、言語活動がさらに充実し、児童の思考力、判断力、表現力等を育むことにつながると考える。また、本研究では授業プランに示した言語活動についてのみ国語科との関連を示したが、各学校のカリキュラムにおいて各教科等における言語活動と国語科との関連を明確にし、校内研修などをとおして学校全体で共通理解を図る必要があると考える。なお、小学校学習指導要領解説の国語編には、「各学年の目標及び内容の系統表」<sup>8)</sup>が示されている。この系統表を参考にしながら、教員一人一人が国語科における各学年の内容の系統を意識することも大切である。

## おわりに

本研究では、児童の思考力、判断力、表現力等の育成に向けた言語活動の効果的な取り入れ方について、授業プランを例に挙げて具体的な視点を示した。本授業プランには、話し合いやレポート作成といった言語活動を示している。これらの活動は、言語活動を充実させるために特別に設けた活動ではなく、これまで多くの授業の中で行われてきた活動である。また、話し合いを行うために多くの時間を設定するなど、言語活動を行うための特別な時間を設けてはおらず、単元の中でそれぞれの言語活動のねらいに応じて必要な活動を行うようにしている。言語活動の充実については、「何か特別なことをしなければならない」「多くの時間が必要になる」と一部の教員が感じることがうかがえるが、それぞれの言語活動のねらいに応じて単元計画に言語活動を位置付けること、各教科等における言語活動と国語科で学習する内容との関連や国語科の内容の系統を意識することにより、従来行ってきた活動が、思考力、表現力、判断力等を育成する活動につながると考える。

本年度、当所で実施した「小学校 言語活動の充実に向けた学習指導研修講座」の終了後、受講者から「新しいことをするのはなく、教科のねらいを達成する手立てとして言語活動をするのだとわかった」「これからは、国語科で身に付けさせた力を、他の教科でどのように生かしていけるか考えたい」という声が聞かれた。平成24年度には、本研究及び本年度当所で実施した「小学校 言語活動の充実に向けた学習指導研修講座」の成果と課題を踏まえ、言語活動の充実に向けてより実践的な研修講座を行う予定である。本研究及び当所での研修講座が各学校における言語活動の充実につながり、児童の思考力、表現力、判断力等を育むための一助となれば幸いである。

注)

- 1) 文部科学省『言語活動の充実に関する指導事例集～思考力、判断力、表現力等の育成に向けて～【小学校版】』, 2011, p. 1
- 2) 文部科学省『小学校学習指導要領』, 2008, p. 16
- 3) 中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領の改善について」(答申), 2008
- 4) 同上
- 5) 文部科学省 前掲書, 2011, p. 11
- 6) 同上, p. 3
- 7) 文部科学省『小学校学習指導要領解説 国語編』, 2008, p. 7
- 8) 同上, pp. 130-137